◆ 当面の予定

5/27(火)	体育祭
30(金)	テスト1週間前(部活禁止) 18:00まで平日放課後自習(~6/3)
31(土),6/1(日)	7:30~15:00 教室開放(自習可能)
6(金)	前期中間考査(~6/12)
9(月)	授業アンケート・文系;教材購入
12(木)	救急安全講習会 ミラクルチャレンジ・プレゼン

◆ 為さねば成らぬ 何事も

冒頭の「当面の予定」を見ましたか? 今号の学年通信の配付日が、学校生活のスケジュール上のどの位置付けにあるのか、現在地を確認しましょう。今号配付の本日が前期中間考査 21 日(3 週間)前です。考査 10 日前には体育祭(5/27)があります。さすがに考査前 1 週間の期間には、試験範囲=2年次4月以降に学習した内容を中心に学習することになるでしょうから、もし1年生の学習内容で不足している分があるとすれば、それまでに取り組んでおく必要があります。

では、1年生の学習内容で不足している分とは何か——それを簡潔に示すのが、スタディーサポートの「弱点克服ドリル」です。スタサポの成績資料返却が 5/1(木)LHR でした。この学年通信配付までの 5/3,4,5,6,10,11 の土日祝日で、取り組み終えましたか? 全国集計の結果、明らかに自分にとって目標未達の箇所を示してくれているのですから、既に解いたという人も、確実に解けるか・確実に覚えているか、もう一度取り組んでもいいくらいです。いわんや、まだ解いていないといふ人をや——です。考査 1 週間前(5/30)から試験勉強に注力し始めることから逆算すると、「弱点克服ドリル」の賞味期限は 5/29 ということとなります。この機会を逃した人が、同様の内容(1年生の学習内容で穴が開いている部分)に取り組む次の機会は、おそらく2年次3月。または、取り組まないまま3年の演習にのぞむか、です。今やって

も後からやっても、かかる労力は同じです。しかし、今やった方が効果は大きい。今ここで取り組んでおけば、2年生の学習内容の理解を支え(逆に、やってなければ理解もあやふやのままです)、後回しにしなかった分、3年での学習スケジュールを圧迫することはありません。やる労力は同じ。でも、今やるのと後でやるのでは効果が違う。だったら結論は「今やる」ですよ。

2年冒頭の進路集会で、永田先生から「2年のうちに目標・志望大学を下げてしまわない。下げずにすれば、3年で目標水準まで持って行きやすくなる」という話がありましたね。この話は1年次の進路集会でも「2年までで一旦下がってしまった水準から伸ばしていくのと、下がらずに推移してきた水準から伸ばしていくのでは、同じ伸び率であっても、最終の到達水準が異なってきます」と話されました。勿論、2年生の間にも成績が上がる方がいいに決まっています。しかし、少なくとも“下げない2年生”が達成されれば、入試間近の3年次冬に、目指す水準に大きく近づくのです。「生野学習のスタンダード」(平日90分・休日4時間以上)も、そのための取り組み指標なのです。

生野高校の3年次授業は、1月31日で終了(定期考査は12月上旬の中間考査までで、以降は午前のみで、過去問を中心とした演習:「講座別授業」になります)ということ踏まえれば、79期生の高校生活は実質、2年次の夏休みが折り返し地点です。夏休みからは高校生活後半戦に入るという自覚を持ちましょう。大学で豊かに学ぶことができる学力を、受験勉強を通じて養成する時期です。大いなる成功には、大いなる準備とそれに伴う時間が必要です。高校生活前半戦に満足している人も、不満足な人も、ここからは、「大学という、自分の次の人生のステージをどこにするのか」を掴み取るということに向けて、真剣に一日一日を大切に送る時です。

一緒に頑張りましょう!